

このたびは森北出版発行の書籍をお買い求めいただき誠にありがとうございました。下記の書籍につきまして、誤りのある箇所がございましたので訂正させていただきます。

タイトル

例題で学ぶ 論理回路設計

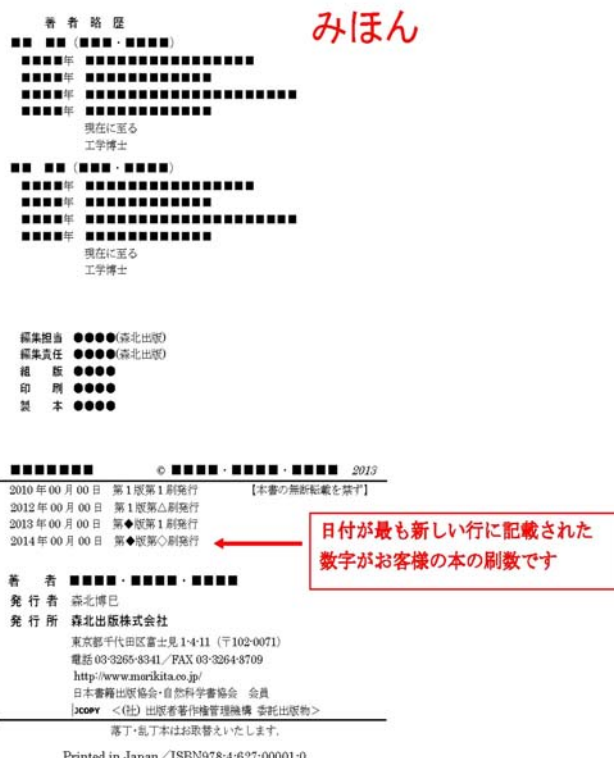
正誤対象

このページにある「刷数の調べ方」をご参照いただき、お持ちの本の刷数をお調べください。正誤表内に「対応刷数」という欄がございますので、該当する刷数の正誤情報をご確認ください。

お持ちの本の刷数	
3 刷	対応刷数 3 より 5 までをご参照ください。
4 刷	対応刷数 4 より 5 までをご参照ください。
5 刷	対応刷数 5 をご参照ください。
それ以降	現在把握している訂正情報はございません。

刷数の調べ方

広告や白ページを除く一番後ろに下図のようなページがございます。ご参照いただき、お客様の本の刷数をご確認ください。



対応刷数	頁	行数, 図・表・式番号	誤	正
3	18	図 2.6 (b)	$= (A \cap \bar{B}), (\bar{A} \cap B)$	$= (A \cap \bar{B}) \cup (\bar{A} \cap B)$
3	19	図 2.7 (b)	$= (A \cap B), (\bar{A} \cap \bar{B})$	$= (A \cap B) \cup (\bar{A} \cap \bar{B})$
5	57	図 3.22 (b)	C	CD
5	59	下から 5 行目	一方, 図 3.26 を用いた解法も考えられる. …	一方, 出力 VXZ のカルノー図(図 3.26)を用いた解法も考えられる. …
3	65	1 行目	入力の組合せで $(1010)_2 \sim \dots$	入力の組合せで $(1011)_2 \sim \dots$
3	65	図 3.36	(右下の図) $Z = \bar{D}$	$Z = D$
3	70	図 3.42	$f = A \cdot B \cdot C \cdot D + \bar{A} \cdot B \cdot C \cdot D + \bar{A} \cdot B \cdot C \cdot \bar{D} + \bar{A} \cdot B \cdot \bar{C} \cdot D + \bar{A} \cdot B \cdot \bar{C} \cdot \bar{D}$ (4変数) $B \cdot C \cdot D \quad \bar{A} \cdot B \cdot C \quad \bar{A} \cdot B \cdot D \quad \bar{A} \cdot B \cdot \bar{D} \quad \bar{A} \cdot B \cdot \bar{C}$ (3変数) $\bar{A} \cdot B \quad \bar{A} \cdot B$ (2変数)	$f = A \cdot B \cdot C \cdot D + \bar{A} \cdot B \cdot C \cdot D + \bar{A} \cdot B \cdot C \cdot \bar{D} + \bar{A} \cdot B \cdot \bar{C} \cdot D + \bar{A} \cdot B \cdot \bar{C} \cdot \bar{D}$ (4変数) $B \cdot C \cdot D \quad \bar{A} \cdot B \cdot D \quad \bar{A} \cdot B \cdot \bar{D}$ (3変数) $\bar{A} \cdot B$ (2変数)
3	79	下から 8 行目	…表 4.3 から…	…表 4.3, 表 4.4 から…
4	95	下から 13 行目	…は不定を意味する.	…は否定を意味する.
3	137	下から 3 行目	…(加数と被加数値/Cout 桁上げ…)	…(加数と被加数値/桁上げ…)
4	143	表 7.15 (b)	(動作の一番上の行) 何もせず	—
4	144	表 7.16 (b)	(左の表の K_1 の最下行) 1	ϕ